

「土砂災害の少ない鎌倉を目指して」

神奈川県 鎌倉市立山崎小学校 6年 ^{さとう}佐藤 ^{なのか}菜花

7月28日、山口県・島根県で土石流発生。8月9日、岩手県・秋田県で土石流・洪水・土砂崩れ発生…今年の夏は全国的に集中豪雨による土砂災害が多い。近年、日本だけでなく、世界のあちこちでも土砂災害や洪水が増えているのは、地球温暖化による集中豪雨や台風の発生件数の増加が原因の一つである、と以前ニュースで聞いた。確かに最近、私の住んでいる鎌倉でもびっくりするくらい激しい雨が降ることがある。私は東北の土砂崩れの新聞記事を読みながら、「鎌倉は大丈夫だろうか」と不安な気持ちになった。

私は母に、鎌倉は土砂災害の起こりやすい所なのかと聞いてみた。すると母は、鎌倉市が配布した土砂災害ハザードマップを出してきてこう言った。

「この茶色い部分が『土砂災害警戒区域』だって。うちは大丈夫だけれど、山崎小学校の学区には茶色い部分が結構あるね…。お父さんもお母さんも鎌倉出身じゃないからよく分からないけれど、昔から鎌倉は土砂災害が多いのかなあ？」

母の言葉で、私の探究心に火が付き、すぐにインターネットや図書館の本で鎌倉の土砂災害について調べてみた。すると、鎌倉市のほとんどの地域が昔、海底だったのが隆起してできたところであるため、もろい砂岩質の土壌であることが分かった。

では、昔から大雨のたびに鎌倉は土砂災害が起きていたのだろうか。昔のことは自分で調べてもよく分からなかったの、ご近所の70代の川上さんという方に話をうかがうことにした。川上さんは先祖代々鎌倉に住んでおられ、山崎小の総合的な学習の時間などにもよく鎌倉の自然について話をしてくださる博識な方だ。

川上さんによると、鎌倉の土砂災害は昔に比べてずい分と増えたそうだ。やはり、集中豪雨が増えたせいもあるが、川上さんの考える、土砂災害の起こる原因は、「森林の手入れをしなくなったこと」だという。昔は調理する時、暖まりたい時、全てまきを使っていた。そのまきは間ばつ材と呼ばれる木を用いていた。間ばつとは、木と木の間に、ある程度距離を保たせるように木を定期的に切ることで、これにより、木が健やかに成長し、地中深く根を張り地盤を支えてくれるのだそうだ。間ばつをせず放っておくと、木どうしが栄養や日光を取り合って、どの木も十分に成長せず、大雨が降ると簡単に流されてしまう。鎌倉の森は60年も放っておかれたせいで、木の種類もすっかり変わり、昔いた生物がいなくなったり少なくなったりしてしまった、と川上さんはとても悲しそうにおっしゃっていた。

私は川上さんの話を聞いて、自分の考えが間違っていたことに気づいた。私は今まで土砂災害が起こるのは、その土地の土質や集中豪雨が原因だから、温暖化を食い止めることくらいしか対策はない、と思っていた。しかし、原因は他にも考えられることが分かった。また、私は今まで「鎌倉は緑が多い」と言われるのをなんだか誇らしく思っていたのだが、緑が多いほど土砂災害に強い森になる、というわけではないことも知った。そして森は、手を加えないで放っておくのではなく、きちんと手入れをしていくことが土砂災害に強い環境づくりにもなるし、生態系を守ることもつながる、ということも学んだ。

今回の土砂災害の勉強を通し、私は、自然について無関心でいると、災害をひきおこし、山をこわし、生態系をこわし、やがて人間社会をも破壊してしまう可能性があると思った。だから、この鎌倉を守るために自然に興味を持ち、どうすれば良いか考える努力をしていくことが必要だと思う。具体的には、どの種類の木が土砂に強いのか、どんな手入れをしていったら良いのか、また、土砂災害を引き起こす原因として、他にどんなものがありどんな対策があるのかなど、これからもっと勉強して、鎌倉を土砂災害の少ないまちにしていきたいと思う。